**大條 和雄 （だいじょう・かずお）**

**１、プロフィール**

小説家、津軽三味線研究家。「山里の詩」で昭和45年「地上文学特別賞」受賞。「津軽三味線のルーツを求めて」（郷土史研究論文優秀賞）等、津軽三味線研究の第一人者。

＜生没＞

1928（昭和３）年12月８日　～　2020（令和２）年４月３日

＜代表作＞

研究『絃魂津軽三味線』『津軽三味線の誕生』

小説『ネプタの華』『スズランと零戦とおさげ髪』他

＜青森との関わり＞

弘前市生まれ。東奥義塾卒業。弘前市で作家活動を展開。

**２、作家解説**

小説家、津軽三味線研究家。昭和21（1946）年旧制東奥義塾卒業。弘前金正堂入社、販売部長など経て退社。時計店、文芸食堂経営の傍ら、小説、津軽三味線研究の２ジャンルに活発な文筆活動を展開する。

小説の分野。同人雑誌「無名群」、今官一主宰の「現代人」等に作品を発表。昭和45年「山里の詩」で第18回「地上文学賞 特別賞」を受賞。この作品が昭和48年「緑の笛豆本の会」から発行された時、今官一が「素直な語部 大條和雄を語る」の序を寄せた。津軽名物のネプタに関心を抱き、殊にネプタ喧嘩については、祖父・父母の思い出ばなしから想をえたという。それらを『ネプタの華』（昭和50）『ザ・ねぷた』（昭57）の２著作にまとめた。平成２(1990)年『スズランと零戦とおさげ髪』を上梓。戦時中、海軍三沢分工場へ学徒動員された時の体験がテーマ。戦中派ロマンの漂う作品となっている。平成12年短編６編を収めた『大條和雄小説集』を出版する。

津軽三味線研究の分野。昭和59年『絃魂津軽三味線』を出版。不明だった津軽三味線のルーツを初めて明らかにする。昭和61年『汝(な)、なだば 叩き三味線木田林松栄』を出版。林松栄師に話を伺ったことが津軽三味線探究のきっかけとなる。その聞き書きである。『津軽三味線のルーツを求めて―その精神と風土』が新人物往来社主催の第15回郷土史研究賞の優秀賞に入賞する。研究の情熱に圧倒されたとの評をえた。なおこの作品は平成４年文芸津軽社から出版された。以降、研究の軌跡の代表的な作品を次に揚げる。『検証津軽三味線』（平成４年）『津軽三味線の誕生―民俗芸能の生成と隆盛』（平成５年）『津軽三味線を語る』（平成10年）他。昭和59年『ザ・ねぷた』『絃魂津軽三味線』により第９回青森県芸術文化報奨受賞。また津軽三味線歴史文化研究所所長。ＮＨＫ弘前文化センター講師等、数多くの関係講師を歴任。津軽三味線研究の第一人者として活躍した。

**３、資料紹介**

〇『津軽三味線の誕生―民俗芸能の生成と隆盛―』

図書

1993（平成５）年１月15日

195mm×133mm

津軽三味線のルーツ探究のドキュメント。荒々しく哀感を帯びた音色で激しく魂を揺さぶる津軽三味線、30余年にわたる聞き書きを重ね、その始祖が秋元仁太郎（通称、神原の仁太坊）であることを突きとめ、ヴェールに包まれていた津軽三味線の全貌を明らかにする。